

小児内服薬服用時の苦味に対する対処方法
に関する検討—苦味に関する実態調査

(¹北海道薬科大学, ²キタ調剤薬局)

○三浦麻緒¹, 岩山訓典¹, 大桃史也², 林 信子²,
北村 大², 早勢伸正¹

【目的】小児用内服薬では、服用しやすさを考慮してシロップ剤やドライシロップ剤が多く使用されている。しかし、実際には苦味のため服用拒否が多いと報告されている。そこで、その実態についてアンケート調査を行い、苦味の強い小児用内服薬は何であるか、また苦味軽減方法の実態について調査した。

【調査方法】札幌市内の A および B 薬局で小児科あるいは耳鼻咽喉科の処方調剤薬を受け取っている小児の付き添い者を対象に、「小児の服薬に関するアンケート」を実施した。調査は、平成 22 年 10～11 月に A・B 薬局内待合室で直接面談して行った。

【結果】A 薬局では 210 枚、B 薬局では 246 枚の回答が収集され、小児科として 155 枚、耳鼻咽喉科として 301 枚が収集された。小児が薬剤服用を拒否する割合は 64.7～67.1%と高率で、乳児より幼児・学童に多かった。服用拒否する理由では、苦味が 41.5～59.2%で圧倒的に高く、拒否する剤形としてシロップ剤より散剤が約 4～8 倍多かった。特に、マクロライド系抗菌薬のドライシロップ剤が挙げられ、その苦味対策として服薬ゼリーやアイスクリームとの併用があった。